

3つの所得分化の境目

所得水準の層状構造：両極分化ではなく、四層分化である

4. 社会的評判による階層分化

十大社会階層の社会評判序列

社会的評判による階層分化の形態

5. 消費による階層分化と生活様式

消費による階層分化の基本形態

消費と生活様式による階層分化

6. 階層イデオロギーと社会に対する態度

階層構成員の身分に対するアイデンティティー

利益に対するイデオロギーの階層化

社会的な不平等感

社会的な満足度

7. 階層分化の傾向

(2) 中国人口高齢化と社会保障

中国社科院社会政策研究センター 唐 钧

高齢化と社会保障は、現在の中国社会では非常に注目されている2つの問題である。前者に対しては、社会全体がほぼ一致した認識を持っているが、後者に対しては、終始異なる意見が存在し、激しい論争が繰り広げられている。

2000年において、中国の65歳以上の高齢者の割合は既に7%になり、中国は高齢化社会を迎えた。専門家はその展開について次のように予測している。

2030年には、65歳以上の人口は13-17%に、60歳以上の人口は19%になる。2050年には、それぞれ19-23%と26%になる。

中国社会の高齢化の特徴について、子供の減少、核家族化、人口流動による変動などが上げられる。

中国は計画経済の時代から、3つの社会保障システムを作り上げてきた。都市における労働者の労働保険と福祉、国家公職者の公費福祉保障、農民（人民公社社員）の集団福祉保障制度である。

しかし、1980年代以来、国有企業の“下炎分流”（国有企業のリストラ）の進行によって、企業の支払いによってまかなわれる社会保障制度が続かず、農村の“大包干”（農業生産引き受け責任制）も集団経済とそれをもとにしていた経済福祉制度が崩壊し、社会保障制度改革が国家の議題として取り上げられるようになってきた。さらに、社会的な流動性を図るために、国家公職者の公費福祉保障の改革も視野に入ってきた。

中国社会保障制度改革は、多重で複合的な目標をもつシステムである。システム自体のしくみとしての“民生”の目標もあるし、“社会安定”（政治目標）や経済計画に符合させていくという目的（経済目標）もある。そのため、改革制度の設計と実施の際には、異なる目標が衝突することがある。民主的な目標は政治的目標や経済的目標などに席を譲ることがしばしば見受けられ、社会保障制度の運営は自身の発展法則から乖離してしまうことがある。

今世紀のはじめ、中国社会科学院社会政策研究センターが“基礎—整合”という社会保障制度改革方向を提案した。同じようなことは他でもあって、上海社会保障局が実務上の経験から“24%+X”の小都市社会保険モデル（いわゆる“鎮保”）を作り上げたが、これは我々の理論設計と一致している。また、シンガポールの中央公共積立金の経験を参考に、“居者有其屋”（住民に住む家を与える）の概念を元に、“資産づくり”の理念を実現させるものもある。さらに“X”の部分“個人発展口座”として設計することで、その役割をさらに発揮させようという考え方がある。

国家公職者について我々は、基礎部分は全国統一的に管理され、個人口座部分が所属する政府部門によって選択されるという方式を提言している。

農民の老後問題については、まず、農民が都市に入ることによって、工業化の過程で社会保障問題の解決が期待される。次に、貧困地域の農民に対しては、国家から“高齢手当”を出すなど社会福祉によって解決することが考えられる。

中国高齢化社会に面する問題を解決するには、資金だけあれば十分ということではなく、一刻も早く適切かつ実際に応用できる社会サービスが作り上げられ、その発展が求められるところである。